

第46号

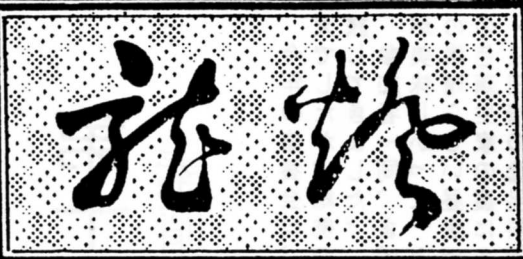
大阪市史跡 龍溪禪師墓所 宝亀山九島院

発行所

〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号  
TEL 06(6583)2725 FAX 06(6583)0908

発行者

第二十五世住職 奥田啓知(智證)



ありがとう大阪近鉄バッファローズ！ がんばれ大阪ドーム！

# 中学生『反抗期』消えた 自分自身の主人公になれ！

産経新聞に「中学生が消えた  
反抗期」という記事が載って  
いました。教育シンクタンクの  
「ベネッセ未来教育センター」  
(東京)の意識調査で分かった  
そうです。

調査は今年二月、関東の中学  
一、三年生千三百五十五人を対  
象に実施したところ、家庭で過  
ぎす時間について、半数を超え  
る中学生が「のびのびできる」  
「安心できる」「楽しい」と回  
答。「退屈」「イライラする」  
「孤独」といった否定的な回答  
はどれも半数以下で、約8割の  
中学生が円満な家庭に満足して  
いることが分かりました。

また、親がどういう場合で絶  
対に叱ると思うかを複数回答さ  
せたところ、「先生の言うこと  
聞かなかつた」「近所の人に  
挨拶をしなかつた」「朝家族に  
おはよう」と言わない「はい  
それ10%前後と、親が子供を叱  
らない傾向が垣間見られるとの  
ことでした。  
フランスの啓蒙思想家ルソー  
は名著「エミール」という書物

のなかで、青年期の特徴として  
自我にめざめ、精神的に自立し  
ていこうとする青年を「第二の  
誕生」ととらえ、心理的離乳の  
さまを「熱病にかかったライオ  
ン」と表現しています。

「第一の誕生」はこの世に人  
間として生まれること、そして  
子供は親に心身とも依存して育  
ちますが、中学生ぐらいたなり  
青年期をむかえるころになると  
自分とよく似た、しかも身近に  
いる親の存在を目障りに感じ  
たり、無視するなどの行動にでま  
す。その強い自己主張と激しい  
感情表出にさらされる姿を「熱  
病にかかったライオン」と表現  
したのです。

この調査からは、そのような  
姿は窺いえません。家庭円満は  
大事なことです。反抗期は子  
供が精神的に自立するうえで不  
可欠な過程です。「反抗期を持  
たない子供がどう自立するの  
が心配だ」とは、調査をまとめ  
たシンクタンクの深谷昌志教授  
の弁です。  
中国唐代の禅僧、師彦(しげ

ん)和尚は、毎日自分自身にむ  
かって「主人公」とよびかけ、  
また自分で「ハイ」と返事をし  
ていました。

「おい主人公」「ハイ」「しっ  
かり目を覚ましてるか」「ハ  
イ」「これから先も人に騙され  
てはいかんぞ」「ハイ、ハイ」  
彼はこれ以外に生涯、説法もし  
なかつたそうです。

「無門関」という禅の語録に  
でてくる話ですが、師彦和尚が  
「目を覚まし、騙されるな」と  
自分自身に忠告しているのは、  
金銭的な問題やトラブルのこと  
ではありません。私たちが世間  
の常識に縛られていることをい  
っているのです。自分自身が他  
の奴隷になるのではなく、私た  
ちは自分自身の「主人公」にな  
ってこそ、仏教的なアイデンテ  
ィティ(主体性)の確立といえ  
るのです。  
こうした「第三の誕生」をへ  
て人は仏(覚者)となるのです



